



報道発表資料の配付日時 10月11日(火) 10時00分

発表項目 (行事名)	令和4年秋の山の実なり(ヒグマの主要食物)調査結果について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>【ポイント】 ヒグマの秋の主要食物4種の実なり豊凶状況調査を実施した結果、<u>ドングリは広範囲で不作、ヤマブドウ及びビコクワは例年並みです。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 道では、ヒグマによる人身被害防止に向けた注意喚起に活用するため、毎年秋に山の実なり調査を実施しています。 ○ 今年度、ヒグマの秋の主要食物4種の実なりの豊凶状況を調査した結果、<u>ドングリ(ミズナラ及びブナの堅果)は広範囲で実なりの悪い傾向が見られましたが、ヤマブドウ及びビコクワ(サルナシの果実)は例年並みの状況となりました。</u> ○ 今年もヒグマによる人身事故が発生しており、不作・凶作の地域以外においても、ヒグマに十分な注意が必要です。 ○ なお、道では、ヒグマによる人身被害防止のため、道ホームページによる情報発信により、道民の皆さまに対する注意喚起を図っております。 (URL:https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/higuma/kihon.html) <p>※ 堅果類等の実なりには地域差があります。また、本調査は限られた地点での結果に基づくものです。 <u>ヒグマの出没には、本調査対象の食物の豊凶以外の要因もあり、本調査は、ひとつの指標であることに十分ご注意ください。</u></p> <p>【添付資料】 令和4年秋の山の実なり調査結果について</p>		
参考	<p>秋に山野に入る際等の被害防止については、令和4年9月3日(土)から10月31日(月)までを期間とする「令和4年秋のヒグマ注意特別期間」を設定し、注意喚起を図っています。 (報道発表資料：令和4年8月29日配布)</p>		
報道(取材)に当たってのお願い			
他のクラブとの関係	同時配付		
	同時レク		
担当 (連絡先)	<p>環境生活部自然環境局野生動物対策課ヒグマ対策室(担当者：主幹 <small>たけだ ただよし</small> 武田 忠義)</p> <p>TEL ダイヤルイン 011-204-5988 内線 24-382</p>		

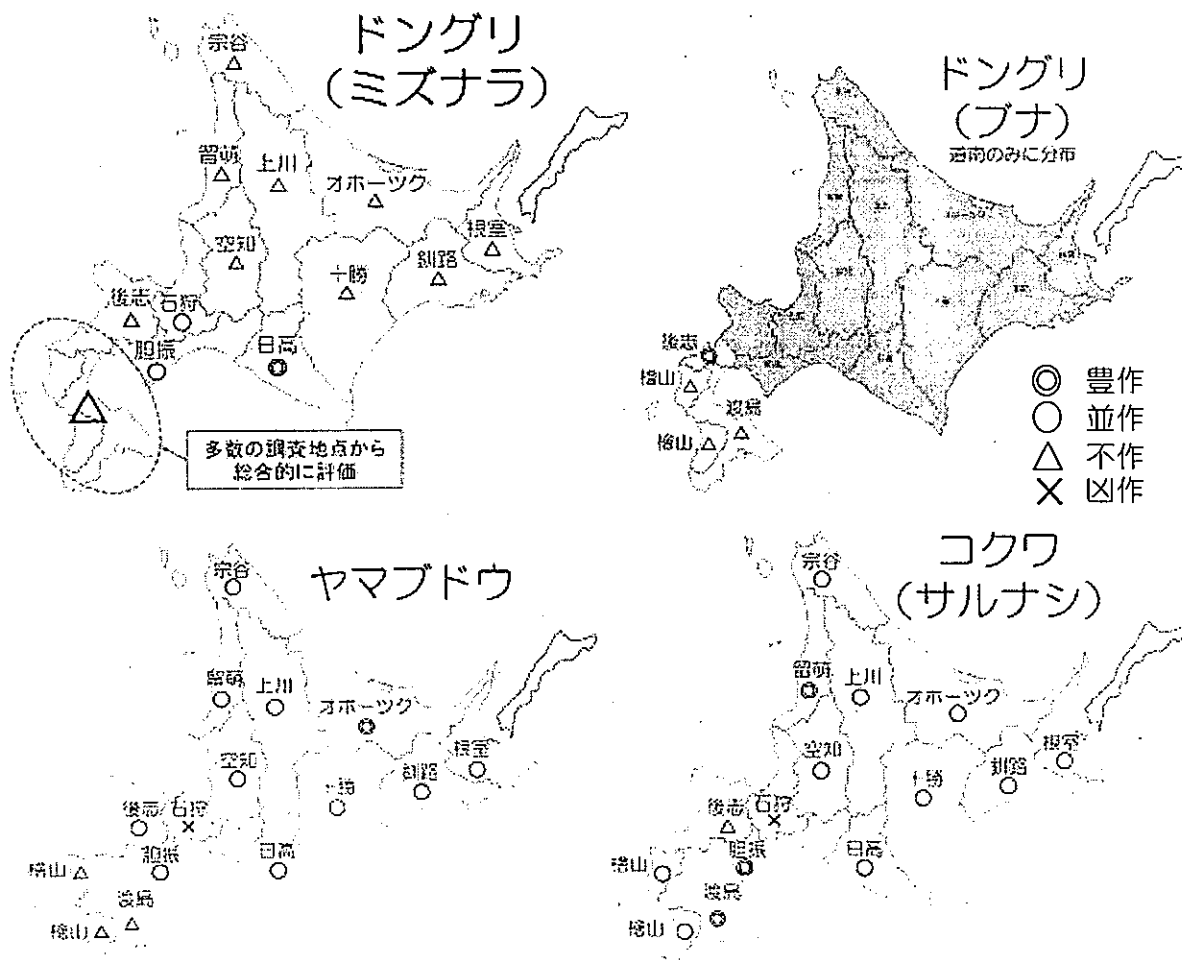
令和4年秋の山の実なり調査結果について

- **ヒグマの秋の主要な食物4種の実なりの豊凶状況を調査した結果、広範囲でドングリ（ミズナラ及びブナの堅果）が不作で実なりの悪い傾向がみられたが、ヤマブドウ、コクワ（サルナシ）は並作で概ね例年並みの状況となりました。**
- **今年もヒグマによる人身被害が既に発生しており、不作・凶作の地域に加え、それ以外の地域でも、ヒグマに十分な注意が必要です。**
- 人身事故を防ぐため、次のポイントに留意して下さい。

【人身被害防止のために注意すべきポイント】

- ① 生ごみ等の放置など、ヒグマを誘引したり定着させたりする原因をつくらないようにしましょう。
- ② 農地で作業する際は、ヒグマの痕跡（足跡やフン）がないか十分に確認するとともに、廃棄農産物を農地内に残置しないようにしましょう。ヒグマが出没している可能性がある場合は、警察、市役所・町村役場に通報しましょう。

図1 ヒグマの秋の主要な食物4種の豊凶状況



【調査方法】

豊凶に関する調査方法として、

- ① 定点で実施した調査に基づく数値的なもの（定量的情報）
 - ② ある地域における観測者の目視による経年比較に基づくもの（定性的情報）
- の2種類の情報を収集しています。

<ドングリ（ミズナラ）：定量的情報（一部定性的情報含む）>

渡島半島地域は、大学演習林、地方独立行政法人北海道立総合研究機構及び黒松内町ブナセンターが実施した21か所の調査地、北海道森林管理局及び道（総合）振興局職員が実施した26か所の調査における調査結果により総合的に評価。

渡島半島地域以外は、北海道森林管理局、道（総合）振興局職員、市町村、自然環境保全団体、大学演習林等が実施した262か所の調査地における調査結果。

<ドングリ（ブナ）（道南地域のみ分布）：定性的情報>

大学演習林、黒松内町ブナセンター、北海道森林管理局及び道（総合）振興局職員が実施した28か所の調査地の定性的情報。

<ヤマブドウ及びコクワ（サルナシ）：定性的情報>

大学演習林、黒松内町ブナセンター、北海道森林管理局及び道（総合）振興局職員が実施した238か所の調査地の定性的情報。

【解説・注意事項】

- 秋（10月～12月）におけるヒグマの市街地や農地への出没の多寡は、その時期の主要な食物の生育状況と関係があると考えられています。道では、秋のヒグマの主要食物のうちの4つ、2種のドングリ（ミズナラ及びブナの堅果）、ヤマブドウ及びコクワ（サルナシの果実）の実なり状況について、関係機関等の協力を得ながら平成17年から調査しています（参考過去6年の結果：図2～5）。
- 今年の調査の結果、一部地域を除き、広い範囲でドングリ（ミズナラ及びブナの堅果）が不作で実なりの悪い傾向となりましたが、ヤマブドウ、コクワ（サルナシ）は並作で概ね例年並みの状況がみられました。（図1）。
- 堅果類等の実なりには地域差があります。また、本調査は限られた地点での結果に基づくものです。ヒグマ出没には本調査対象の食物の豊凶以外の要因もあるので、ご注意ください。
- 道（総合）振興局職員の調査は、保健環境部環境生活課職員と森林室職員の調査になっています。

【豊凶状況の表示変更】

- 令和元年度から北海道森林管理局及び道（総合）振興局森林室職員の調査協力が得られたことで、各振興局管内で広域的に豊凶状況を確認できるようになったことから、令和2年度より市町村単位から振興局単位で豊凶状況を評価するとともに、3段階（豊作、並作、不作～凶作）から4段階の豊凶状況の表示に変更しました。

図2 ドングリ(ミズナラ)の豊凶(H29~R4)

渡島半島地域は、多数の調査地点から総合的に評価

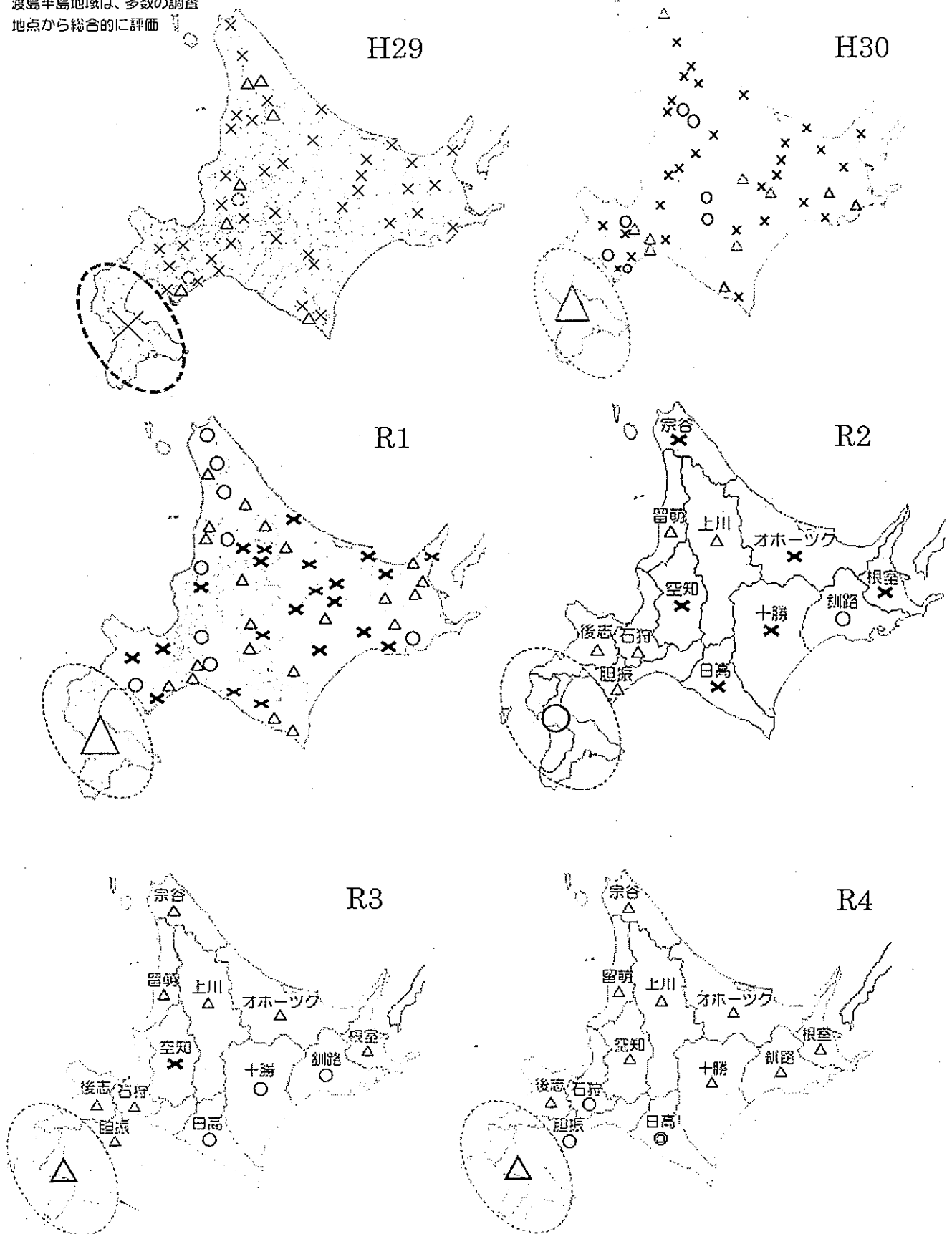
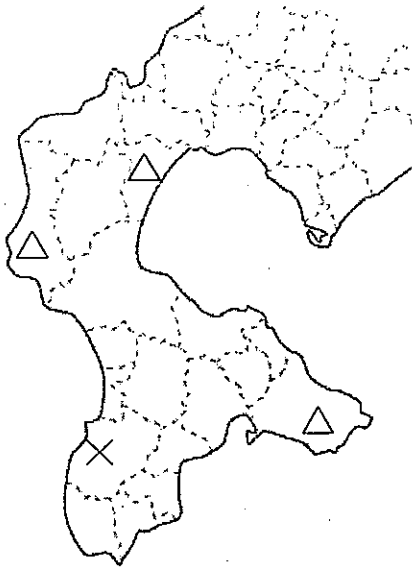
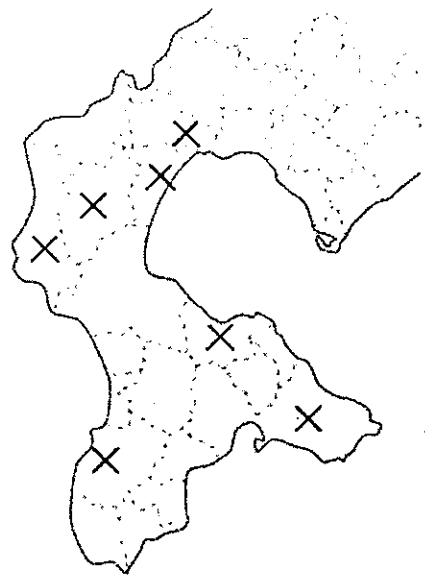


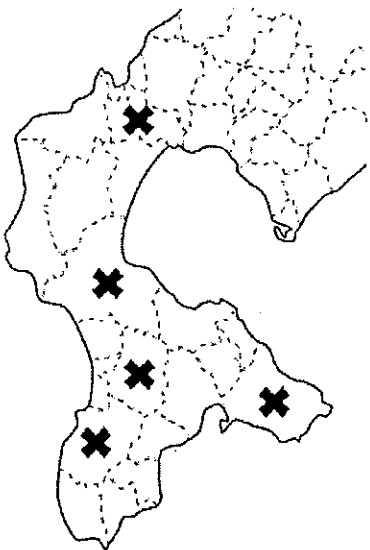
図3 ドングリ(ブナ)の豊凶(H29~R4)



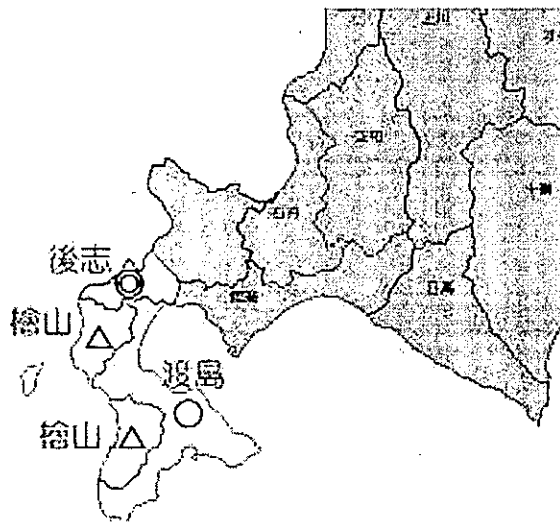
H29



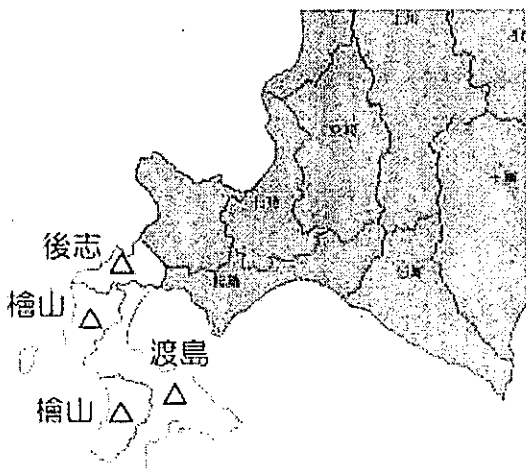
H30



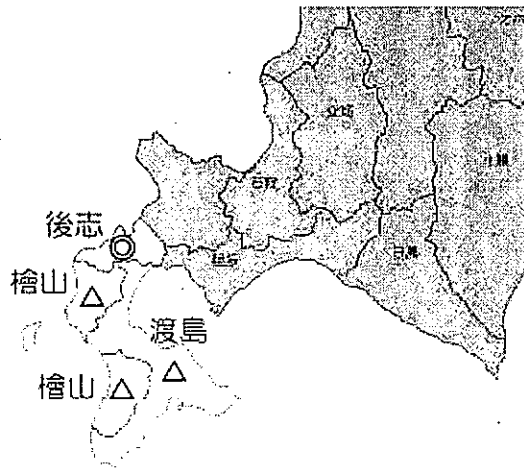
R1



R2



R3



R4

